**第７回大会報告記**

**内藤　亨代**

　第７回日本アイリス・マードック学会は、二年ぶりに岡山に戻って県立図書館デジタル情報シアターで開かれた。（１１月５日（土）１１時～１６時）この図書館は完成後日が浅く、快適で便宜の良い会場を使用できたことは幸いであった。

総会は榎本眞理子氏の司会のもと、室谷洋三会長の挨拶で始まった。最近の日本の世情に触れてマードックの世界に描かれる目的のない悪意と善意に言及された。

次に平井杏子氏より理事会の報告がなされた。以下の６点である。

１．次期開催場所は恵泉女学園大学(東京都多摩市南野2-10-1)に決まった。
２．開催時期は２００６年１０月１４日か２８日のいずれかで、開催校、講師の都合によって決定する。
３．特別講演の講師は井内雄四郎氏より依頼する。
４．山本長一氏の理事就任を決定した。
５．ホームページは２００５年１月に更新され、マードック関係の資料が掲載されている。著作情報は当分の間マードック学会員の出版物のみ扱う。
６．会長・副会長の辞任希望があったが、とりあえず以下のように決定した。

　会長：室谷洋三氏（続行）
副会長：井内雄四郎氏、植木研介氏（続行）
平井杏子氏が新たに就任。（井内雄四郎氏は後１年のみ続行）

以上の案件が承認された後、事務局からの報告が駒沢礼子氏よりあった。１２月にニューズレター第６号を発行したこと、ホームページの改訂は効果があると考えられ、少しずつ会員も学会出席者も増加傾向にあること、ニューズレターへの投稿を歓迎すること、そして住所変更などは必ず届けて下さいとのことであった。

最後に会計の小野順子氏より会計報告がなされ、会計は滞りなく順調である旨の報告があり、出席者が承認した。 午後の研究発表は以下の順で行われた。

１．Wendy中西氏：Shakespeare and Buddhism in Bruno's Dream　司会　榎本眞理子氏
２．佐久川豊子氏：戯曲「ジョアナ、ジョアナ」　司会　室谷洋三氏
３．Paul Hullah氏：'Calling All into Doubt': Art, Life, and Identity in Murdoch's 'Not highly Regarded' The Italian Girl　司会　橋本信子氏

内容については、本誌の研究発表要旨に記載されているのでご高覧願いたい。いずれも活発な質疑応答があり、特に「ジョアナ、ジョアナ」については時間切れで質問を打ち切った。Hullah氏がパワーポイントを使用したのは新しい試みである。

休憩後の特別講演は平井杏子氏による「マードックとサミュエル・ベケット」であった。ベケットの影響をマードックがいかに深く受けていたか、マードックはベケットをどのように理解していたのか、或いはしていなかったのか、など詳細に準備された資料を追いつつ、マードックのもつ不可解さを示唆した。

懇親会は全日空ホテルの和食レストランで１７時３０分より開かれ、出席者は十数人であったが、落ち着いて会話を交わすことができ、和やかな時間を過ごして来年の再会を期して散会となった。
今回は障害者スポーツ大会と日程が重なったため、いろいろな面で事務方のご苦労は大きかったと思う。あらためて準備に心を砕いて下さった方々に深く感謝したい。